

2014年2月 会報 厚木ワイズメンズクラブ 第114号

主 題	万年クラブ会長 池田湘南・沖縄部部長 渡辺東日本区理事 アジア地域会長 国際会長	ささやかな祈りがあるとすれば、自分以外の周囲に心を寄せる みんなで楽しく奉仕 いざ立て 未来を始めよう、今すぐに 全ての世界へ出て行こう
-----	--	--

今月の聖句 (強調月間 TOF 断食の時)

むなしい言葉に惑わされてはなりません。あなた方は、今は主に結ばれて、光となっています。光の子として歩みなさい。光から、あらゆる善意と正義と真実とが生じるのです。

エフェソの信徒への手紙 5章 6～9 選者 徳澤洋子

イエス・キリストのご降誕を祝して

—厚木 YMCA クリスマス祝会に参列—



12月14日厚木YMCAのクリスマス祝会が401教室で17時から開催されました。教室は厚木YMCA

専門学校生を中心に100人あまりの人でいっぱい席を得るのも一苦労という状態でした。

第1部 燭火礼拝 生徒さんたちが司会し、聖書朗読では「ルカによる福音書」からマリアへのお告げ、幼児の誕生、羊飼いの来訪の箇所を4人の生徒さんが担当、それぞれの聖句朗読に続いて、それにふさわしい讃美歌の全員による斉唱があり、クリスマスらしい雰囲気が醸し出されました。

続いて深野牧師の「恐れてはならない」と題してのスピーチ、キリストが説き、かつ実践した愛とはどんなものなのか、それは「友のために命を捨てる、これ以上に大きな愛はない。」という厳粛なもので

すと説かれ、クリスマスがどうしてメリークリスマスなのかを話され、その真の喜びにあずかったもののあり方を語られた。

YMCAの素晴らしさの一つは、イエスとの出会い場を、いろいろなときに、設けられていることだと改めて思いました。

第2部は祝会 こども総合科1年生のゴスペル、クリスマス委員の特別讃美「喜びの季節」介護科2年生のトーンチャイムなど生徒さんたちの才能の豊かさに驚きつつ聞き入りました。

第3部はキャロリング 本厚木駅前に集合、帰路を急ぐ人も、足を止め聞き入ったり、献金をしていただいたり、寒い中でしたが、クリスマスの喜びを身を感じた聖夜でした。

ひとつ気づいたことは厚木YMCA云々という横断幕掲げてみてはどうだろうか、道行く人たちはいったい誰がと私たちを見ているようだったので、YMCAですと鮮明に示したら専門学校のPRにもなるのではとおもいましたが。

田口堅吉

例会データ	1月	在籍会員 18人
会 員	13人	メイキャッツプ済み
ビジター	2人	出席率
ゲ ス ト	人	
合 計	15人	72%

例会のご案内	会 長	万年 孝助
原則として第4水曜日18時半から2時間	副会長	石井 芳隆
お問い合わせ先	副会長	谷口 四郎
Tel 046-223-1441 吉永貴弘	副会長	田中 勝子
	書 記	千葉 裕子
	会 計	岩淵 正弘

明るい歓声あがる ーホサナ保育園のお餅つきー



恒例となったホサナ保育園のお餅つきが1月8日9時からはじめられました。

園児たちが会員の石井さんの田圃で田植えから稲刈りまで体験させてもらった田で収穫されたお米で、石井さんの道具一式をお借りして、70人あまりの園児が全員、お餅つきを楽しみました。

教わったお餅つきの歌を歌ったり、先生のお餅つきについてのクイズに元気よく答えたりしながら準備の終わるのを待ちました。

お餅つきには力がいらいます。お餅つきの経験のある園児たちの若いお父さん、手返しの経験のあるお母さんなど数人がお手伝いで参加。私どもも4人が参加。小さい子の組から順番に、石井さんに指導を受けて杵を振り上げていました。組ごとに順番を待つのですが、屈託のない園児たちの顔もこの時は幾分緊張のせいかみんな引きつっているように見えました。少しでしたが泣き出す子もいました。

それが搗き終わると、安堵したのか、もとの可愛い顔にもどり、何とも言えない素晴らしいものにみえました。



そのあと、年長組の園児たちは搗きたての小さく分けたお餅に黄粉をまぶしたり、お醤油を付け、海苔で

巻いたり昼食のお手伝いを真剣にしました。

お昼近く、食卓が並べられ、出来たてのお餅とスープが配られ、食前のお祈り、そしてお食事。私たちもそれぞれ一人ずつ各食卓について園児と一緒にいろいろお話をしながらいただきました。なかでも石井さんたちの食卓は、石井さんをみんなよく知っているせいもあって、とてもにぎやかでたのしそうでした。年長さんたちはみんなおかわりをいただいで中には二度三度おかわりする子もいてとても楽しそうでした。

(田口)

未来に向かって

(厚木市紹介：元日の神奈川新聞記事から転載)

▲メイドイン厚木 PR

ほっそり体形のユルキャラが、モーター音とともに緩やかに立ち上がった。歩き出し、立ち止まっておじぎもした。

等身大型二足歩行ロボット「ロボコロ」。「あつぎものづくりブランドプロジェクト」ATSUMO と厚木市内にある神奈川工科大学が開発した。まだ試作機だが、部品は会員企業が制作。市も支援し、産学公連携の「メイドイン厚木」だ。

昨年11月の「国際ロボット展」で見事な動きを見せた。ことし春の完成を目指し「寝た状態から起き上り、話ができるようになる」と開発担当の同大の兵頭和人教授。

ATSUMO の中村幹夫会長は「特区では一番にロボットをつくりたかった」とインパクトの大切さを強調。さまざまなイベントにロボコロを登場させ、厚木のものづくりをPRする。

▲あつぎものづくりブランドプロジェクト

(ATSUMO) は厚木商工会議所に加盟する約30社が参加して2013年5月に結成。厚木市内の中小企業の技術力強化やブランドの価値向上、地域産業の活性化などを目指す。ロボット制作はその第1弾。

▲開通へ高まる期待 圏央道工事大詰め

圏央道を南北に走るさがみ縦貫道路の工事が大詰めを迎え、相模原愛川インターチェンジ(IC)と高尾山IC間の14.7キロ区間がことし6月開通予定。開通すれば中央自動車道、関越自動車道とも結ばれ便利になると地元の期待は大きい。

2月活動予定

2月3日(月) 区大会準備打ち合わせ

19時～20時半 厚木YMCAにて

ご都合のつく方、ぜひご参加ください。食事なし。

2月8日(土) 第2例会 厚木YMCAにて18時半～

2月21日～23日 部長沖繩公式訪問

2月25日(火) うたごえひろば 別館7F

13時半～15時半

2月26日(水) 第1例会 18時半～

会長を除く来期三役、クラブ事業担当の選出。

食事なし。